

太宰府市  
×  
筑紫野市  
合同企画

# わたしたちの宝満山



太宰府市と筑紫野市にまたがる宝満山。福岡県で最も登山者が多い人気の山であり、古代から信仰の山として人々の心の拠りどころとなってきました。今回の特集では、2市が共同で、国史跡指定から10年を迎える宝満山について紹介します。  
【問】経営企画課 広聴広報係(☎内線514)

高校時代、宝満山の山頂で山岳部の勧誘を受けたことが思い出に残っています。結局入部はしませんでした。ですが、現在は史跡解説員として宝満山を案内しながら登り続けています。多いときでは毎月2回の登山を10年間続け、あわせて300回登ったほど。いまだに飽きない魅力が宝満山にはあります。

宝満山の大きな魅力の一つは、その見晴らしの良さにあります。山頂からの眺望は、南に大根地山、古処山、英彦山。西に四王寺山から天拝山、その先に脊振山系。北に博多湾から志賀島、玄海島。東は仏頂山、砥石山、シヨウケ越から若杉山。その先に孔大寺山へ続く春の峰入りの古道が続きます。まさに360度、宝満山を中心に周辺の山々を見渡すことができます。

また、宝満山はその角度によってちがった表情を見せてくれます。太宰府市から山頂に向かう途中には、重要な文化財があちらこちらに存在し興味深いです。筑紫野市から宝満山を眺めると、その大きさと形の美しさを一層感じられます。宝満山を訪れる人には、ぜひ太宰府・筑紫野の両側から登ってほしいと思います。



史跡解説員として宝満山の案内を続ける  
おおば あきら  
大場 明さん

大宰府史跡解説員の任意団体「くすのき会」で過去6年間代表を務め、現在も史跡解説で宝満山の案内を続ける。現在は太宰府市芝原区の自治会長として、地域でまちづくりに取り組む。

## 地域から見て

## インタビュー 宝満山と私

### 研究者から見て

地方の山としては珍しいことですが、宝満山は古代にまで遡ることができる資料が充実しています。確実な文献資料としては、803年に最澄が入唐の渡海祈願のため龍門山寺で薬師仏を彫ったことが「龍門山」の初見となります。龍門山とは宝満山の旧名です。

また、考古資料としては、山頂や龍門岩などから古代の祭祀土器などが見つかっています。土器には中華思想において西側の外国を示す「蕃」の文字が書かれており、国家的な祭祀が行われていたことがうかがえます。

龍門神社の縁起によると、664年、大宰府の鬼門除けのため山頂に八百万神を祀ったことが宝満山での祭祀始まりとされますが、それを裏付けるような一級資料が充実していることが研究者から見た魅力の一つですね。



宝満山研究の第一人者  
もり ひろこ  
森 弘子さん

私は宝満山に強い関心を向けるようになったのは、仕事を通してのことでした。筑紫野で生まれ、京都の大学を卒業してふるさとに帰った私は、太宰府天満宮宮司の西高辻信貞さんから「宝満山を青春のライフワークにしませんか」と声をかけられ、太宰府天

満宮文化研究所に勤めることとなりました。そこでの最初の仕事は、著名な先生の助手として、宝満山の歴史を説明すべく資料集めをするものでした。結婚や出産を機に研究を辞めようと思ったこともあったのですが、西高辻宮司をはじめ恩師の方々や宝満山修験会の皆さんなど多くの方から励まされ続け、今に至ります。宝満山は縁結びの神様ともいわれますが、さまざまな方とご縁がながって、半世紀余りも研究を続けられてきたことを考えると、不思議な気持ちになりますね。

### 市長山頂対談

太宰府市長 楠田大蔵  
筑紫野市長 平井一三

平井市長(以下「平」)・私は妻と結婚前に登って以来、約40年ぶりの登山でしたが、さすが修験の山、きつかったですね。  
楠田市長(以下「楠」)・二日市小学校の遠足で登ってきつかった思い出があります。大人になってもきつかったです。あらためて、山頂をめざすヒキガエルのすごさを感じます。  
平・本当ですね。実際に登ると、宝満山が長い時間をかけていろんな人の手で守られてきたことがわかります。  
楠・両市で協力して策定した「史跡宝満山保存活用計画」に基づき、この山



の貴重な歴史や文化を多くの人と共有していきたいですね。

平・宝満山の登山道は九州自然歩道の一部にもなっていますから、「道」としても魅力と可能性があると思います。海外でもロングトレイルは根強い人気ですし。

楠・観光や駅周辺の活性化にもつながる可能性がありますね。

平・今回の企画にあたって、あらためて宝満山について学び、両市の取り組みを振り返り、その上で楠田市長と一緒に登ることで「わたしたちの宝満山」という想いを強くしました。

楠・両市の市長と一緒に山頂に立つなんて初めてのことだと思いますよ。こうしていると、いろんな連携が実現可能な気がします。相乗効果で全国にどうぞ両市にしていきましょう。



一の鳥居

# 宝満山、 国史跡指定から10年

— これからも守り、伝えたい —



宝満山は、太宰府市と筑紫野市にまたがる霊山として古くから信仰の対象となってきました。標高829m。山頂まで石段が続く険しい山として、福岡県でも登山者が多く訪れる指折りの山です。

伝承によると宝満山の歴史は1350年以上におよびます。古代最大の役所「大宰府」の北東にあり、深いつながりがあった宝満山では神社と寺院が共存していました。その宗教的な融合は中世から近世の修験道の隆盛につながっていきます。

信仰の山として全国的にも価値が高いと文化庁に認められ、2013年10月17日に国の史跡に指定されました。背景には、文化庁補助金を受けて太宰府市が開始した2005年からの基礎調査があります。もちろん、江戸時代以来の地域研究の積み重ねや昭和における太宰府天満宮西高辻信貞宮司(当時)の構想による宝満山文化総合調査会の成果も多大でした。

その後、2019年には太宰府市と筑紫野市が史跡管理団体に認定され、2020年に両市共同で『史跡宝満山保存活用計画』を2カ年にわたる議論を重ね、策定しました。

今後は、頻発する豪雨災害を見据えた史跡宝満山の整備が課題で、そのためにも整備計画の策定が必要です。これからも、時代を超えて史跡宝満山を守り伝えていきます。

## 宝満山関連イベント

宝満山史跡指定10年を記念して、さまざまなイベントが開催されます。

| イベント内容  | 日時  | 場所                         | 申し込み・問い合わせ など  |
|---|---|----------------------------|--|
| 筑紫野市講演会「祈りの山 宝満山」<br>講師/森 弘子さん<br>(福岡県文化財保護審議会会長)   | 10月14日(土)<br>午後1時30分～<br>3時30分                | 筑紫野市<br>生涯学習センター<br>3階視聴覚室 | <b>申</b> 電話・窓口 10月4日(水)9時～<br><b>定</b> 先着100人<br><b>問</b> 筑紫野市歴史博物館<br>☎(922)1911  |
| 御笠まちづくり協議会 特別講演会<br>「宝満山、竈門神社、大宰府の歴史」<br>講師/西高辻 信宏さん(太宰府天満宮宮司)  | 10月15日(日)<br>午後2時～4時                          | 筑紫野市<br>御笠コミュニティ<br>センター   | <b>定</b> 当日先着120人<br><b>問</b> 御笠まちづくり協議会<br>☎(408)6026   |
| 宝満山史跡指定10周年記念イベント<br>①記念講座<br>「未来へつなぐ宝満山の魅力再発見!」<br>講師/森 弘子さん(福岡県文化財保護審議会会長)<br>山村 信榮、高橋 学(太宰府市文化財課職員)<br>②3D体験<br>「みてみよう、さわってみよう、<br>太宰府市の文化財」 | 10月29日(日)<br>①午前10時～<br>正午<br>②午後1時30分～<br>4時 | 太宰府市<br>文化ふれあい館            | <b>申</b> ①不要<br>②往復はがき・ホームページ<br>9月下旬～10月17日(火)<br><b>定</b> ①当日先着100人<br>②20人(3Dプリンター出力品<br>色塗り体験のみ)<br><b>問</b> 太宰府市文化ふれあい館<br>☎(928)0800 |
| ロビー展<br>「宝満山から英彦山へ<br>～山伏が歩いた修行の道～」   | ～10月29日(日)<br>午前9時～<br>午後4時30分                | 筑紫野市<br>歴史博物館              | <b>問</b> 筑紫野市歴史博物館<br>☎(922)1911   |
| まると太宰府歴史展2023<br>「宝満山史跡指定10周年記念」特設コーナー  | ～11月3日(金・祝)                                   | 太宰府市<br>文化ふれあい館            | <b>問</b> 太宰府市文化ふれあい館<br>☎(928)0800   |
| 企画展「Full of Treasure Mountain<br>宝満つる山、祈り満つる山」  | ～12月3日(日)<br>午前9時～<br>午後4時30分<br>(入館は午後4時まで)  | 太宰府天満宮<br>宝物殿<br>第2・企画展示室  | 観覧料あり/入館は午後4時まで<br>10月9日を除く月曜休館<br><b>問</b> 太宰府天満宮文化研究所<br>☎(922)8225  |

## 宝満山の1350年

|                                 |                          |                      |                                 |                            |                           |                  |            |              |  |                          |                 |                                 |                            |                               |
|---------------------------------|--------------------------|----------------------|---------------------------------|----------------------------|---------------------------|------------------|------------|--------------|--|--------------------------|-----------------|---------------------------------|----------------------------|-------------------------------|
| 2020年                           | 2019年                    | 2013年                | 2005年                           | 1986年                      | 1960年                     | 1870年            | 1593年      | 1336年        | 1318年  | 1179年                    | 1106年           | 847年                            | 803年                       | 664年                          |
| 大宰府市・筑紫野市が共同で『史跡宝満山保存活用計画』を策定する | 太宰府市・筑紫野市が史跡の管理団体の指定をうける | 宝満山が国指定史跡宝満山として指定される | 太宰府市教育委員会が5カ年の国庫補助事業で宝満山基礎調査を開始 | 太宰府市が開発に伴う宝満山遺跡群の緊急発掘調査を開始 | 西高辻信貞宮司が「宝満山文化総合調査会」を組織する | 宝満山中で廃仏毀釈がおこなわれる | 社殿の造営がはじまる | 二十五坊が山上に移住する | 菊池武敏が小式真経(妙恵)の守る「内山の城」(有智山城)を攻め、山中の社殿坊舎が悉く消失する | 筑紫の霊験所に大山(宝満山)、四王寺が挙げられる | 大宰府竈門宮に正二位上を授ける | 沙弥證覚が伝教大師最澄の遺記により大宰府竈門山に宝塔を造立する | 最澄の渡海祈願のため大宰府竈門山寺で薬師仏を四体彫る | 伝承によると大宰府の鬼門除けのため竈門山頂に八百万神を祀る |